1　学校の正門の前（朝）

ユウスケ（１７）が遅刻しそうになりながら走ってくる。
そこへ友人のタカシ（１７）が出くわす。

タカシ　「おう、おはよ！」

ユウスケ　「おう」

タカシが鞄を当てようとしたのをよけながら、ユウスケはそのまま正門に駆け込む。生活指導の先生が正門の扉を閉める。

ユウスケ　「セーフ」

タカシ　「ぎりぎりセーフ。一限の木下、課題やって来たか!?」

ユウスケ　「あっ、」

ユウスケは立ち止まり、少し天を仰いで、ため息まじりに呟く。

ユウスケ　「アウト」

□□□